



JAあそだより

平成23年 1月

明けましておめでとうございます



初日(大観峰付近から撮影)



■今号16ページ主な内容

- 新年のごあいさつ
- JA阿蘇10周年記念感謝祭
- JA熊本県青壮年部大会、JA阿蘇女性部フォーラム
- 各生産部会の動き

● JA 阿蘇農業協同組合

本所 〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地387-5
TEL 0967-22-6111/FAX 0967-23-1088

阿蘇農業協同組合合併10周年を迎え

地域農業・地域社会に貢献する

JA活動に更なる邁進



阿蘇農業協同組合
代表理事組合長 中尾 雄二

新年、明けましておめでとうございます。

組合員の皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、スタートから10周年という大きな節目を迎え「阿蘇農業協同組合」合併10周年記念行事を盛大に挙行することができました。これも偏に組合員各位のご支援・ご協力によるものと、心より厚くお礼申し上げます。

さて、わが国の景気は、海外経済の改善が続く中で、緩やかに回復しつつも、自律的回復力は脆弱であるといわれています。

一方、農業をとりまく情勢は、政権交代により「農業者戸別所得補償制度」の導入など、農政の大転換期を迎えております。

22年4月に宮崎県内で確認された家畜伝染病「口蹄疫」については、必死の防疫にもかかわらず殺傷処分の対象となった牛・豚の頭数は28万頭を超え未曾有の事態となりました。

また、10月に発表された政府の関税撤廃を前提とするTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)参加表明に対して、JAグループは、わが国農畜産業に壊滅的な打撃を与えるだけでなく、地域経済全体へ波及する問題として、消費者にも理解を求めながら、反対運動を強力に展開しております。加えて、いまだ続くデフレの影響により、国産農畜産物価格の低迷は長期化し、海外原料相場を反映した生産コストの高止まりが、農家にとって厳しい状況をもたらしています。

このような状況を踏まえ、地域農業・地域社会に貢献するJA活動の更なる発展を目標に、新たに策定された「JA阿蘇活動総合3カ年計画」及び「JA阿蘇経営事業改革プロジェクト」を確実に実践しながら経営の健全化・効率化に向け邁進していく所存です。

本年も厳しい情勢が予想されておりますが、組合員皆様の負託に応え得るJAを目指し、役職員一丸となって取り組んで参りますので、尚一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、新しい年が皆様にとりまして、ご健勝で幸多き年になりますよう、心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



「一致団結し難局を乗り切ろう!」JA熊本県青壮年部大会

**「組織活動実績」発表
荒牧光博さん最優秀賞
「盟友の主張」発表
中村和章さん優秀賞**

熊本県農協青壮年部協議会は10月28日、熊本市で2010年JA熊本県青壮年部大会を開きました。同大会は地域農業のリーダーであり重要な担い手であるJA青壮年部組織の発展を目的としており、部員ら350人が参加。主張や組織活動実績発表など日頃の活動



最優秀賞の荒牧さんと優秀賞の中村さんを囲んでの記念撮影

成果を披露しました。

主催者挨拶では西富大二郎県青協委員長が「農業を取り巻く環境は米価下落やTPPの問題などで予断を許さない。今後の農業のためにも、現場の我々の声が強い力となる。一致団結しこの難局を乗り切ろう」と述べました。その後、各郡市から推薦された11人の部員が盟友の主張を発表。JA阿蘇青壮年部から出場した中村和章さんは健闘しましたが惜しくも優秀賞となりました。

組織活動実績では高森支部の荒牧光博さんが「次世代に繋ぐ農への挑戦」を発表し、見事最優秀賞に選ばれました。

**JA阿蘇青壮年部の荒牧光博さん
JA九州沖縄地区青年大会でも
最優秀賞に輝く!**



JA九州沖縄地区青年大会が11月26・27日、熊本市で開かれ、組織活動実績発表で「次世代に繋ぐ農への挑戦」というテーマで発表しましたJA阿蘇青壮年部高森支部

年金友の会グラウンドゴルフ大会 坂梨文男さんが選手宣誓



力強く選手宣誓をする坂梨さん

第12回JAバンク熊本・年金友の会親善グラウンドゴルフ大会が11月18日、熊本市のパークドーム熊本で開かれ県内JAから498人が参加しました。この大会は熊本県内のJA年金友の会組織拡大を図るとともに、会員相互の親善と融和を深めることを目的に

の荒牧光博さんが最優秀賞に輝きました。

荒牧さんは、九州地区代表として2月に東京で開かれるJA全国青年大会に出場します。荒牧さんは「今までの高森支部の活動が認められ、とてもうれし。全国でもトップを狙いたい」と抱負を述べています。

(写真上)JA九州沖縄地区青年大会で最優秀賞に選ばれた荒牧さん

毎年開催されています。JA阿蘇からも地区予選を勝ち抜いた45人が参加しました。

開会式では全選手を代表してJA阿蘇年金友の会の坂梨文男会長が元気に選手宣誓を行いました。試合はA・Bブロック4コートに分かれ行われ、各選手は熱戦を繰り広げました。接戦の結果、惜しくもJA阿蘇からの入賞者はいませんでした。選手は楽しい一日を過ごしました。



JA阿蘇代表の選手の写真

各支部員の体験発表や講演
「漬物コンクール」表彰
「ちやぐりん感想文」発表など行う



オープニングセレモニーでの保育園児による和太鼓演奏

第8回JA阿蘇女性部フォーラム・家の光大会が11月9日、阿蘇市のいこいの村で行われ、女性部員をはじめ来賓、JA関係者など190人が参加しました。

オープニングセレモニーとして、赤水保育園の園児による和太鼓演奏や、昨年まで行われていた「家庭菜園コンクール」に代わり、9月に新たに行われた「漬物コンクール」の表彰式が行われ、最優秀賞の後藤エツ子さん(白水支部)ら9人に杉本いよ部長から表彰状と記念品が贈られました。

開会式の挨拶で杉本部長は、「口蹄疫や残暑の後遺症、そして浮上したTPPへの参加問題と、現在



主催者挨拶をする杉本部長

の農業は多くの問題を抱えている。このような時代だからこそ、女性がこれまで以上に農業を支えていかなければならない」と決意を述べました。恒例の「ちやぐりん感想文」(10・11頁に掲載)の発表も行われ、



「漬物コンクール」入賞者の皆さん

内牧小学校4年の熊谷ひなたさん、高森東小学校4年の白石帆君、碧水小学校4年の西竜馬君(当日欠席のため録音テープで感想文を発表)に家の光協会の上田達哉支局長から表彰状と記念品が贈られました。

講演会では講師に熊本市の小規模多機能型居宅介護事務所の松永佳子所長を迎え「認知症の基礎知識」認知症を地域で支えるために」と題した講演が行われました。



「ちやぐりん感想文」の発表



認知症の講演を行う松永所長

体験発表では小国郷支部の長谷部マチ子さんによる「みんなに会いそして感謝!」と題した発表があり、また各支部代表による「3分間スピーチ」では農業の苦労話や喜びなどが明るく楽しく語られ、会場からは大きな歓声や拍手が送られました。

また青壮年部の「盟友の主張」発表も行われ、白水支部の中村和章さんが「今の想い」というタイトルで農業経営への思いを語りました。



↑体験発表をする長谷部さん



↑体験発表を聴く会場の皆さん



会場には部員の手作り作品も展示



古新聞紙で「エコバック」や「コサージュ」を作り交流はかる
女性部の白水・久木野・長陽支部



J A阿蘇女性部の白水・久木野・長陽の3支部では、地区の範囲を超えての交流を目的に、勉強会や健康教室などの活動を定期的に行っています。10月5日には会場の白水中央支所に部員18人が集い、古新聞紙で「エコバック」と「コサージュ」作りを行いました。

新聞紙を再利用したエコバックは、1か月分の新聞が入るようになっており、そのまま古新聞回収にも出せると好評でした。コサージュはマニキュアで色付けをして、一目では古新聞とは分からない出来上がりとなりました。また、ほかに

もタオル帽子作りなどもしました。参加した部員は「家庭でも簡単に出来るので、秋の夜長を楽しみながら作品作りをしていきたい」と話していました。今後は、様々なイベントへの出品も予定されており、J Aの担当者も「部員に限らず多くの人も見てほしい」と語っていました。



写真上＝エコバック作りをする女性部3支部の皆さん。
写真下＝古新聞紙から出来上がった作品



「漬物コンクール」を初開催
最優秀賞に後藤エツ子さん(白水)
「大根のしょうゆ漬け」
J A阿蘇女性部

10月19日、営農部事務所女性部による漬物コンクールが行われました。コンクールにはJ A阿蘇管内各支部から23点の応募があり、大根やナス、ウド、ニガウリなどを使ったものなど個性豊かな漬物が出品されました。J A役員や女性部支部長ら16人が試食して、自家製の野菜を使用しているか、味や色合い、風味などを審査しました。審査の結果、白水支部の後藤エツ子さんが作った「大根のしょうゆ漬け」が最優秀賞に輝きました。

審査員から「出品された漬物は、それぞれの家庭で工夫を凝らして作られており、とてもおいしかった。これらを商品化して販売する方向にできるといいですね」との講評がありました。

入賞者の表彰式は11月9日、J A阿蘇女性部フォーラムで行われました。

(写真上＝1品ずつ試食して味を確かめる審査員)

J A阿蘇女性部3支部
「南阿蘇村交流フェスタ」に出品



J A阿蘇女性部3支部(白水・久木野・長陽)は10月31日、南阿蘇村「あそ望の郷くぎの」で行われた南阿蘇村交流フェスタ「あそのみ」のなかの「あきまつり」に参加し、とれたての新米で作った餅の販売を行いました。

当日は朝6時から準備にとりかかり125パック(1パック5個入り)を作り、1パック400円で販売しお昼過ぎにはすべて完売しました。

今回で5回目となるこのあきまつりには、各種団体よりたくさんの方の農産物販売や多彩なイベントなどが行われており、毎年多くの観客で賑わっています。

(写真＝新米で作った餅の販売を行う女性支部のみなさん)

東京・自由ヶ丘で
ヒゴムラサキの販促を行う
南部ナス部会女性部



10月に入ってピークは過ぎましたが、昼夜の寒暖差が大きくなり、より甘くなった「ヒゴムラサキ」の都市圏市場での認知度向上と需要拡大を目的に、J A阿蘇南部ナス部会女性部と同ブランド化研究会は10月2日、東京の自由ヶ丘で料理方法を示しながら「ヒゴムラサキ」の販促促進を行いました。

南部ナス部会では2年前より青果物コントロールセンターを活用した販売拡大を行っており、現在、主要消費地は県内をはじめ、東京・大阪・名古屋へと拡大しています。

ヒゴムラサキはJ A阿蘇管内で

18戸が生産し、栽培面積は3ha、年間販売高の5500万円を目指しています。

(写真上)ヒゴムラサキの説明をする
南部ナス部会女性部

「どの産地にも負けない肉厚と味」
生シイタケの出荷始まる

J A阿蘇蘇陽地区

蘇陽集荷場では生シイタケの出荷が10月4日より始まりました。同地区では100人の生産者が原木栽培に取り組んでおり、阿蘇の気温差を生かして肉厚の生シイタケを作っています。現在、出荷されている生シイタケは2年前に原木に駒を打ち込んだもので、日量約100ケース(1ケース1kg入)の出荷となっています。ピーク時には日量1000ケースになることもあります。

今後は福岡を中心に5月まで約351の出荷を予定しています。同



波野産キャベツの消費宣伝会
キャベツ1120玉を完売

波野キャベツ部会

J A阿蘇波野キャベツ部会(岩下明部会長)は10月23日、熊本市の八王子センターで波野産キャベツの消費宣伝会を行いました。同宣伝会は、波野の高冷地特有の温度差と澄みきった空気、そして肥沃な大地でおいしく育った健康なキャベツを、県内の消費者に少しでも知ってもらい、さらなる販路拡大へつなげようという目的で初めて試みられました。

当日はキャベツのかき揚げや、道の駅「神楽苑」オリジナル商品

部会では定期的に目慣らし会を行い、均一なものを出荷すること、市場より高い評価を得ています。また、原木栽培という特徴を生かし、量販店でも消費者に伝わるように出荷資材にも記載しています。

販売担当の田上伊織職員は「どの産地にも負けない肉厚と味に自信を持っている。阿蘇というブランドを生かした販売を今後も続けていきたい」と意気込みを語っていました。

(写真上)出荷検査を行うJ A職員



キャベツ1120玉を完売した消費宣伝会

のキャベツドレッシング実演販売などを行い、キャベツ1120玉が完売し盛況のうちに終了しました。

試食コーナーでは「キャベツのかき揚げ?」とびっくりする買い物客が多く、試食した人は「さっそく今晚家で作ってみます」、「近所にもかき揚げを教えてください」などと話していました。波野キャベツ部会では、採れたてのおいしさと鮮度をそのまま消費者に届けるため、真空予冷設備により短時間で芯まで冷やし県内を中心に出荷しています。

現在、波野キャベツ部会は生産者21人で面積約180ha、昨年度の販売高2億8千万円、同出荷数量は3500tとなっています。

県内先頭を切りイチゴ出荷
販売高6億円を計画

阿蘇中部地区



J A阿蘇の阿蘇町野菜集荷場では10月21日から、県内トップを切って高冷イチゴの出荷が始まりました。2010年度は15haで「さがほのか」「紅ほっぺ」を中心に作付けされており、J A阿蘇の中でも上位の作付面積を誇っています。高冷イチゴの栽培は寒暖の差があるため、肥培管理が難しい反面、食味は申し分ありません。

現在、阿蘇中部のイチゴ生産者は59人で出荷量200万パック(1パック300g)、販売高6億円を計画しています。出荷は6月下旬までとなっており、パツグンの玉肥大を見て販売担当の森本光也職員は「自信を持って販売していきたい」と抱負を語っています。

(写真)初出荷となった「さがほのか」

品質重視、検査体制強化が第一
中部イチゴ部会出荷査定会



J A阿蘇中部イチゴ部会は11月26日、阿蘇市で22年度産イチゴ出荷査定会を開き、生産者・行政・J A・市場関係者ら約70人が参加しました。山本誠也部会長は「生産者全員が中部イチゴの誇りを持ち、良識ある行動を取って頂きたい。また、J Aには品質・検査体制の強化をとってもらいたい、自信を持って検査してもらいたい」と挨拶しました。

今年度重点事項としては有利販売を行い、銘柄産地として認知されることを目指し、高品質生産管理を徹底することを確認。併せて、生育状況報告や出荷規格説明なども行われました。

(写真)検査をする山本部会長



ソフトトレーで荷傷み軽減
業務用イチゴ販売も強化
南部イチゴ部会



J A阿蘇南部イチゴ部会(山辺達也部会長)では、11月8日より南

部野菜センターで阿蘇イチゴの出荷を始めました。昨年よりも7日程度遅い出荷開始となりました。当日、南部イチゴ部会員が持ち込んだ「さがほのか」を担当職員が検査し、福岡方面へ出荷しました。今年度は昨年の出荷開始時期の反省を生かし、少しでも荷傷み軽減につながるようにと、ソフトトレー中心の出荷となりました。同部会では6月まで出荷計画を組んでおり、大阪を中心に142t(前年比101%)出荷予定です。

(写真)初検査をするJ A職員

阿蘇イチゴの品質向上を目標に
南部イチゴ部会出荷査定会

南部イチゴ部会は11月29日、南阿蘇村で生産者ら約50人が出席し2010年産出荷査定会を行いました。山辺部会長が「今の状態に胡坐をかくことなく、常に品質向上を目標とし、阿蘇イチゴのフ

アン作りと、消費地の求める販売アイテムへの挑戦に積極的に取り組みたい」と力強く挨拶しました。

査定会では担当職員がプロジェクターを使用し、現在の生育概況と詰め方の見直しについて提案を行いました。同部会では3年前より生産者が少数の生産部会として、他産地に負けない販売が出来ないかと12月に役員が市場視察を兼ねて産地研修を行っており、レギュラー詰め(300g)を主軸に様々な出荷形態を取り入れ、特徴のある販売展開をしています。今年度は生産者24人で作付面積3.8ha(前年比95%)、品種構成「さがほのか」93%、「紅ほっぺ」7%、販売目標は出荷数量46万9000パック、販売金額1億4900万円、目標パック当たり販売単価320円となっています。



力強くあいさつする山辺部会長

多彩なイベントで大盛況

10周年記念感謝祭

J A阿蘇は11月23日、合併10周年を記念し、阿蘇市体育館で「J A阿蘇10周年記念感謝祭」を行い、野菜や果物の販売のほか多彩なイベントを催し、1,200人の来場者で賑わいました。オープニングセレモニーでは大阿蘇名水太鼓の披露が行われ、太鼓の迫力ある演奏で来場者を魅了していました。



主催者挨拶をする中尾組合理長

↓大阿蘇名水太鼓の演奏

記念式典で中尾雄二組合理長は「農業、J A事業を取り巻く環境は依然として厳しい状況ですが、本日を新たなスタートと位置づけ、今後とも組合員の負託に応えられるJ A阿蘇として、役員一丸となって努力してまいります」とあいさつしました。

記念講演では日本有数の高原野菜(レタス)の産地で、農家平均売り上げ2年連続2500万円以上という長野県川上村の村長で全国町村会会長でもある藤原忠彦さんによる「逆境に負けないむらづくり」と題しての講演が行われました。



↑女性部のコーナーにも人だかり!



↑藤原全国町村会長の講演



「みなさん大満足! 美味しい〜!」



「大勢の来場者が押しかけた阿蘇市体育館」



小倉の虎舞「三段巻ぎ」



波野の「中江岩戸神楽」

来場者1200人!!

JA阿蘇



当日は青壮年部によるふるまい餅や、女性部が用意した1000人限定販売の豚汁やのっぺい汁、おにぎりなども用意されていましたが、お昼過ぎにはすべて完売。参加者からは「すごく美味し〜と大変好評でした。」

営農部による
↓農作物販売



→大人気!
牛肉試食コーナー



→餅つき
青壮年部による



→中国楽団員の華麗な演技



↑丸山会長、中尾組合長に感謝状



中国楽団員の息のあった演技

また屋外テントでは朝から営農部による野菜や果物の販売、そのほか新米つかみ取りや牛肉の試食コーナーなどがあり、多くの人が押し寄せ長蛇の列が出来ていました。

「JA阿蘇10周年記念感謝祭」の午後からは、アトラクションとして波野の「中江岩戸神楽」や「小倉の虎舞」(阿蘇町)などの伝統芸能の披露、続いて中国吉林省民族楽団らによる中国古来の楽器を用いた歌や演奏なども行われ、会場からは終始大きな拍手や歓声が沸き上がっていました。

甘いみかんを
↓大サービス!



↑バナナも格安で大奉仕!



↑華麗な演奏にうっとり~



中国の楽団から「JA阿蘇10周年祝賀」横断幕

子ども兵士のゆめ、を讀んで

阿蘇市立内牧小学校4年

熊谷 ひなた

「日本の子どもがうらやましい。わたしは子どもの時にゆうかいされて兵士になったから。」

アフリカの農村に生まれたという理由だけで、兵士にさせられてしまう子どももいる。その中の一人、マリアはこんなことを言っていた。子ども兵士は一番きけんな場所であたかかわせられる。大人は強い。子ども兵士もいやだと言っていてやればいいのに、と思った。

でもそんなことはできないのだ。たたかいはこぼんだらうら切り者としてぼつをあたえられるからだ。自由には生きていけないのかと思った。

わたしは、朝ベッドから起きて、朝ごはんも食べられる。洋服も何着もあるし、学校に行つて勉強もできる。でもマリアはベッドにねられないし、朝ごはんだってないかもしれない。洋服だって一着しかなくて、勉強もできない。わたしにとってあたり前のきゅう食も、部活動もマリアにとって考えられないことだと思つた。

せんそうはいけないことだ。もしマリアの国にせんそうがなかったら

わたしと同じ生活だったかもしれない。

せんそうのせいでマリアは家族とはなれてきみしかつたと思う。マリアはせんそうなんかきらいだつただろう。きつと(なんで農村に生まれただけでせんそうに行かなくちゃならぬのか)と思つていたはずだ。

「大人になつてもピースでネックレスを作る方ほうしか知らない。だけど、そのことにはほこりをもっているの。」

マリアはめぐまれていないことを悲しむのではなく、まづしいなりに必死にがんばつて生きている。

どんなに小さなことだつて、必死にやれば何かにつながる。だからわたしは何か一つを必死にやろう、と思つた。

子ども兵士の夢を讀んで

阿蘇市立西水小学校4年

西 竜馬

ぼくが、一番にびっくりしたのは、大人のつこうで、子どもをゆうかいして、むりやり兵士にしていった事です。

ぼくが、銃を持たされて、だれかをころせと言われてもいやでころすことなんてできません。それに、銃を持つ事すらできません。

ぼくが、ゆうかいされたら、家族にずつと会えないし、毎日常で、こわくて、ないていると思う。マリアという女の子は、命令を聞かなかったから、口びるを切りとられてしまいます。その時、死ぬほどいたかつたんだと思う。ぼくも、つみのない人たちをころす事なんて、できません。マリアがぼくだつたら、ぼくも命令を聞かず口びるを切られていたんだとおそろしく思いました。

マリアは、子どもができて、その子どもが、兵士にさせられると思つて軍をにげられます。その時見つかつたら、今度はころされるかもしれない。でも子どものためにせつたいに、にげだしたいと思つたのじゃないかと思つた。

ぼくは、あまり勉強は、すきではありません。でもマリアは、勉強をしたくてもできません。今でも勉強をしたくてもできない子どもたちが、たくさんいます。勉強をしないとお金の計算もできないし、文字も読めません。だから、勉強ができるぼくたちは、幸せだと思つた。ぼくは、今学校へ行く事ができます。すきな運動、遊びもできます。食べたい物も食べられます。ほしい物も買ってもらえます。日本の子どもは、本当に、めぐまれていると思つた。

ぼくは、自分で何かを作つて売つてそのお金で生活するなんてできません。今も、せんそうをしている国があります。大人達のせいで、子どもが死んでいきます。せんそうなんかやめて、世界が平和になつてほしい。せんそうなんて、せつたいに、おこしたくありません。

キノポリカンガルについて

高森町立高森小学校4年

白石 帆

「すい。」

キノポリカンガルにびっくりしたことが三つあります。まず、名前の通り木登りができ、地面でジャンプして進む二つの特長を持っていることです。次に二十メートル位の高さから飛びおろすことです。三つ目は、親と二年間しかいっしょにすることができないことです。

ぼくは、ちゃぐりんでこの動物を初めて知りました。名前を聞いたとき、小さいカンガルが木の上でジャンプしている様子を見ました。読んでみるとそれはちがっていました。写真でそのすがたと生活の様子がよく分かりました。

地面で、活動しているときは、カン

ガルルーのようにしっぽと足をバネのように使って長いきよりをジャンプしています。でも、木の上では、体より長いしっぽをたらしめています。バランスをとっているように思います。顔は、りすとくまを合わせたようでもかわいくカングルーと全くちがいます。写真を見るとジャングルで生きているのに会いたくありません。

ぼくは、九才になっても家族や友だち先生方とすごしています。ぼくと同じ年に生まれたキノポリカングルーは七年も親やまわりの人とはなれてくらししているの大人だと思いました。子どものぼくには、まだまだ教えてもらうことがあるのでひとりです。とほはできません。

でも、今ぼくにできることがあります。キノポリカングルーが生息している森の木や石油は日本でもつかわれているそうです。四年生の社会で学習した、リデュース・リユース・リサイクルをしてかざられたしげんを大切にしたいです。そうすればキノポリカングルーの生活を守れると思います。



阿蘇イチゴの販促グッズ作成
イチゴイチゴ
「莓一笑」のキャッチフレーズで



J A阿蘇南部イチゴ部会(山辺達也部会長)は、「阿蘇イチゴ」の販売促進を目的にオリジナルの販促ジャンパーを作成しました。バックプリントには、今年の干支であるウサギを中心に「莓一笑」のキャッチフレーズを入れました。

今後、販促ジャンパーは取引市場や仲卸等へ配布したり、女性部の販売促進キャンペーンで使用する予定です。担当の後藤真智職員は「キャッチフレーズのように莓一粒で、購入された方が笑顔になれば…」と話しており、山辺部会長も「ウサギのように単価も跳ね上がれば」と、今後の販売に期待を込めていました。

(写真：完成した販促ジャンパー)

税務署からのお知らせ

～ 相続又は贈与等に係る生命保険契約や損害保険契約等に基づく年金の税務上の取扱いの変更について ～

この度、遺族の方が年金として受給する生命保険金のうち、相続税の課税対象となった部分については、所得税の課税対象にならないとする最高裁判所の判決がありました。そこで、このような年金に係る税務上の取扱いを改めることとしましたので、お知らせします。これにより、平成17年分から平成21年分までの各年分について所得税が納めすぎとなっている方につきましては、その納めすぎとなっている所得税が還付となります。

お手数をお掛けしますが、必要なお手続き(更正の請求又は確定申告など)をしていただきますようお願いいたします。

この取扱いの変更の対象となる方や所得税の還付のお手続きについては、国税庁ホームページ[www.nta.go.jp]をご覧ください。最寄りの税務署にお問い合わせください。

※平成17年分について、早い方は平成22年12月末が還付できる期限となりますので、お早目のお手続きをお願いします。

※受け取られた年金の受給権が相続税や贈与税の課税対象となる場合は、実際に相続税や贈与税の納税額が生じなかった方も対象となります。

大きなサツマイモに大歓声！ まるごとあそっ子スクール

果実連ジューシー工場見学とサツマイモ収穫を体験

JA阿蘇は11月6日、西原村で「まるごとあそっ子スクール」の収穫体験を行い、生徒(あそっ子)とその保護者ら40人が参加しました。

収穫の前に食農教育の一環として、JA熊本果実連のジューシー工場を見学しました。果実連の今村幸則さんからジューシーができるまでの行程や紙パックなどの説明を受けた後、工場内の生産ラインを見学しました。途中でミカンの総重量を量る「トラックスケール」でスタッフを含む全員の体重を量ったところ、総重量2450kgの数字に、あそ

っ子たちは「意外と重かったね」と話していました。

その後、西原村のサツマイモ畑に移動して収穫を体験をしました。JA職員からサツマイモの特徴や掘り方の説明を受けた後、一斉に圃場に入って収穫を行いました。土壌が硬かったため、掘るのに苦労していましたが、土から掘り上げたサツマイモの想像以上の大きさに大歓声を上げ、「大きいのが採れたよ」と大喜びして、みんなで比べ合いをしていました。



ジュースが出来るまでを勉強中です



みんなで「ハイ、おイモ！」



トラックスケールでみんなの総重量を計測中...



私のサツマイモが重そう



大きなサツマイモをゲットしたよ♡



どこを掘っても、大きなサツマイモが出てくるよ!

長陽少年野球クラブ
2度目の優勝飾る

J A阿蘇は10月16日、第4回J A阿蘇旗争奪学童わんぱく軟式野球大会を阿蘇市一の宮総合運動公園で開催し、阿蘇郡市の小学生で構成する6チーム120人が参加して熱戦を繰り広げました。同大会は、組合員・地域住民が住みなれた地域で健康で安心して暮らせる、豊かな地域社会・環境づくりに貢献する



2度目の優勝を果たした「長陽少年野球クラブ」(写真上)と準優勝の「阿蘇西イーグルス」

ための社会貢献活動の一環として行われています。

開会式で中尾雄二組合長が「日頃の練習の成果を十分に発揮し、怪我をしないよう優勝めざして頑張つて下さい」とあいさつ。選手を代表して阿蘇ビクトリー主将の高橋碧輝君が元気に選手宣誓を行いました。

試合は決勝で長陽少年野球クラブと阿蘇西イーグルスが対戦。2対1と阿蘇西イーグルスがリードす

る中、7回に長陽少年野球クラブが2点を追加し3対2と逆転。そのまま長陽少年野球クラブが勝利し、2度目の優勝を果たしました。主将の田村隼君は「6年生最後の試合で優勝できてとてもうれしい」と喜びを語っていました。

阿蘇でツルの越冬地づくり
水土里ネット阿蘇

水土里ネット阿蘇(阿蘇土地改良区)は11月13日、阿蘇にツルを誘致しようと、阿蘇市役大原の田んぼで日本野鳥の会や地元の子供たち10人とアコイ(ツルの模型)を設置しました。マナツルのアコイはFRP製で高さ1.4mとほぼ実物大。同アコイは日本野鳥の会を通じて佐賀県伊万里市から借り受けたものです。

作業の前に日本野鳥の会自然保護室の小南幸弘さんや、同県支部長の高野茂樹さんからツルの生態や設置方法などについて説明を受け、アコイはエサ場となる田んぼ約25mの中央部に設置し、その周りにエサとなるくず米をまいたり、周囲の田んぼ約50mに水を張るなどの作業を行いました。

同地区では一昨年、昨年と数羽のナベツルの飛来が確認されており、参加した子供たちは「模型(アコイ)が本物みたいでびっくりした。たくさんさんのツルに来てほしい」と話していました。水土里ネット阿蘇では、今後もツルが好む水環境や生物が生息しやすい自然環境を維持していけるよう取り組み計画です。



マナツルのアコイと関係者の皆さん

お年賀に大好評！ 赤土育ちの「自然薯」



久木野自然薯部会(笠野新喜部会長)は12月1日から自然薯出荷を始めました。同部会は20数年前から自然薯栽培を始め、高品質と粘りにより固定客を増やしてきました。現在、生産者は9名です。近年は県内外の消費者からの注文も多くなり、毎年、お歳暮やお年賀商材として年々問い合わせが増えています。商品はkg当たり2200円程度で、むかこも付いています。▽問い合わせ先⇒南部野菜センター09697(92)09676(写真⇒出荷される自然薯)

販売高、前年を上回る 中部キュウリ部会反省会・総会

J A阿蘇中部キュウリ部会は12月2日、2010年反省会及び総会を阿蘇市で開き、部会員・市場・J A関係者ら50人が出席しました。10年は出荷数量で約3万ケース(1ケース5kg)、前年比93%と下回ったものの販売高4千万円(同

比121%)と前年を上回りました。立山崇章部会長は挨拶で、「次年度は有利販売と長期的な栽培に頑張つて頂きたい」と述べ、市場関係者は「シーズンを通して安定した供給を頂き、品質的にも安定しており消費地としては大変ありがたい」と感謝の意を伝えました。



挨拶をする立山崇章部会長

最優秀賞に筑紫大輔さん JA阿蘇ロールプレイング大会



写真左から梶原・筑紫・新堀職員

J A阿蘇は12月4日、一の宮中央支所で信用窓口ロールプレイング大会(窓口対応コンクール)を

「旬の味覚を知る食育」実践 あそひかり幼稚園

あそひかり幼稚園(阿蘇市一の宮町)では食育活動の一環として11月2日、「味覚の大切さと食に対する興味を持たせたい」という目的で、「メロン・柿・梨・りんご・サツマイモ」の5品目を一口大に切って、目隠しした園児約20人に食べさせ、それぞれの味覚を正解で



最優秀賞の筑紫職員

開き、各店舗から10チームが参加。あらかじめ設定された事例に従い、J Aカード(二体型)やマイカーローンの推進、年金口座の新規獲得など日頃窓口で対応している技術を競い合いました。競技の結果、波野支所の筑紫大輔さんが最優秀賞に選ばれ、優秀賞には小国郷中央支所の梶原治美さんと、阿蘇町中央支所の新堀美佳さんが選ばれました。最優秀賞の筑紫さんは1月29日にウイニング松橋で行われる「J Aバンク熊本窓口ロールプレイング大会」に出場します。

きるかを試みました。その結果5品目とも正解できたのは1人だけで、りんごとサツマイモの正解率は高く、普段よく食べ食感にも特徴のあるサツマイモは、すぐに答えが出て、柿などは分かりにくかったようでした。園長先生は「今回の結果を保育参観などで報告し、食べ物には何が入っているのか、どんなものが使われているかなどを説明して、食べさせるように保護者にも話をしていきたい」と語っていました。



一口大に切った果物などを目隠しして食べる園児

白熱の試合が繰り広げられる 職員スポーツ交流会

J A阿蘇は11月27日、白水体育館で職員スポーツ交流会としてミニバレーボール大会を行いました。

大会には各中央支所から32チーム、250人の職員が参加。試合は6パートに分かれて行われ、各コートではそれぞれ白熱した試合が繰り広げられていました。

(写真は次頁に掲載しました)

理事会・監事会報告

■平成22年度第9回理事会

日時 平成22年10月29日午後1時30分

場所 一の宮中央支所会議室

1. 開会

2. 組合長挨拶

3. 協議事項

委員会報告(経済専門委員会・債権管理委員会)

平成22年度上半期実績報告について

1) JA阿蘇米需給調整・需要拡大基金交付要領(案)について

2) 農地利用集積円滑化事業実施要領等の制定(案)について

3) 農地利用集積円滑化事業等に係る手数料に関する内規(案)について

4) セルフSS販売プリペイドカード未使用残高が政令で定める額を超えた場合の供託について

5) 貸出金について

報告事項

1) 熊本県常例検査書の交付について

2) 平成22年度上半期内部監査実施状況報告書について

3) 平成22年度JA阿蘇コンプライアンス・プログラムの進捗状況について(9月末)

4) 不祥事未然防止の為の行動計画22年9月末進捗状況について

5) 組合員の加入及び脱退の状況について

6) JA阿蘇総合展示会実施要領について

7) 平成22年度上期決算事務監査日程について

8) 野菜等の販売先について

4. 閉会

■平成22年度第10回理事会

日時 平成22年11月26日午後1時30分

場所 一の宮中央支所会議室

1. 開会

2. 組合長挨拶

3. 協議事項

委員会報告(総務委員会)

10月末実績について

1) 余裕金運用にかかるリスク管理手続の一部改正について

2) 役員等定数検討諮問委員会要領(案)について ➡

3) 西原中央支所事務所改装について

4) 貸出金について

5) 職員年末賞与支給について

報告事項

1) JA阿蘇活動総合3ヶ年計画の22年9月末進捗状況について

2) 経営事業改革プロジェクト22年9月末進捗状況について

3) 貸出金に伴う出資金額及び金融店舗統合の状況について

4) 平成22年度全国監査機構決算監査期中改善指示書について

5) 米の販売促進及び部会の統合状況について

6) JA熊本経済連の組織方向について

7) 12月理事会開催について

4. 閉会

●平成22年度第7回監事会

日時 平成22年10月13日午後1時30分

場所 本所2階第1会議室

1. 開会

2. 挨拶

3. 議題

1) 平成22年度上期決算事務監事監査日程及び人員配置について

2) 平成22年度米麦等穀類監事監査回答書について

3) 平成22年度上期内部監査報告について

4) その他

4. 閉会

●平成22年度第8回監事会

日時 平成22年12月2日午後1時30分

場所 本所2階第1会議室

1. 開会

2. 挨拶

3. 議題

1) 平成22年度上期決算事務監事監査報告書(案)について

2) 平成22年度導入家畜等穀類監事監査実施(案)について

3) 監事研修会について

4) その他

①ハウスリース現地確認結果報告について

②JAバンク基本方針に基づく「業務執行体制に関する報告」について

4. 閉会

JA阿蘇退職者を表彰



JA阿蘇は10月25日、平成22年9月30日付で定年退職された2名の退職者表彰式を本所で行いました。

中尾雄二組合長から退職者へ感謝状と記念品が贈られ、永きにわたりJA職員として組合運営に貢献されたことへの功績をたたえ、その労を労いました。本当にお疲れ様でした。



職員スポーツ交流会の様子

JAの 積立型終身共済

入れるんです。

40歳から加入できる、中高齢者向け積立型の共済です。

80歳までの病気による万一保障を経過期間に応じた額にする積立型！！
掛け捨て型の共済ではありません！！

ご契約例

積立型終身共済 60歳 男性

- 一時払掛金 1,000,000円
- 保障金額 1,319,300円 (80歳以降)

「掛け捨て
じゃない！」

左記契約例での解約返戻金推挙

年齢	経過年数	解約返戻金
63歳	(3年経過)	1,015,881円
64歳	(4年経過)	1,027,447円
65歳	(5年経過)	1,039,139円
70歳	(10年経過)	1,099,203円

※記載の解約返戻金の表示金額は、各共済年度の12か月目に解約を行った場合の試算値です。

解約された日より異なる場合がありますのでご注意ください。

※ご契約後2年以内にご解約される場合には、返戻金が払込んだ掛金に満たない場合があります。

※期間途中で解約された場合の返戻金は、一時所得扱いとなります。

※記載内容は、平成22年4月1日現在の税制に基づくものであり、将来的に変更されることもあります。

簡単な手続きで加入できる終身共済です。

80歳までの病気による万一保障を積立型にすることで、加入しやすくなりました。

- ☆手続き簡単！ 医師による診査無しに加入できます。
健康に不安がある方でも加入できます。(注1)
- ☆中高齢の方が加入できます。加入年齢 40歳～75歳
- ☆他の生命共済と通算して5億円まで加入できます。(注2)

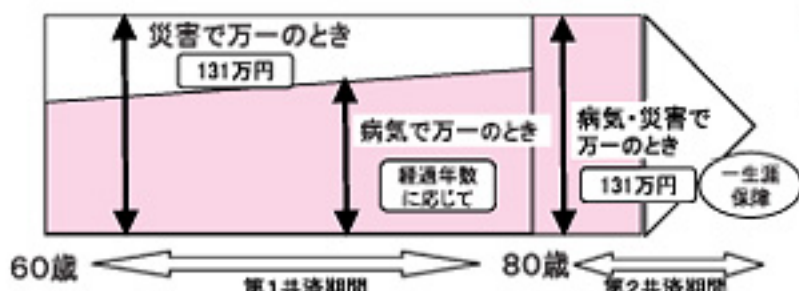
(注1) 身体状況によってはお引受けできない場合もございます。

(注2) ただし、加入年齢によって最高限度額が異なります。詳しくは、JA各支所・担当者にお問い合わせ下さい。

医師の審査は
不要です！



《加入例 男性・60歳加入・掛金建(一時払): 共済掛金100万円・共済金額131万円》



◎災害により万一の場合、
加入時から共済金額の100%保障

◎病気により万一の場合、
80歳まで(第1共済期間)は、
経過年数に応じて保障

80歳以降(第2共済期間)は、
共済金額の100%を保障

※第1共済期間(80歳までの期間)に病気での死亡時はその時点での所定の金額が死亡共済金額となります。災害で万一の際は共済金額をお支払いします。所定の金額は右記のとおりです。

注「万一のとき」とは、死亡・所定の第1級後遺障害・重度要介護状態のいずれかを指します。

※積立型終身一時払い第1共済期間中の疾病死亡共済金算出式: 共済掛金の額 + [共済金額 × 表③の単一共済掛金の額] × 経過年数 + 契約日からその日を含めて第1共済期間の満了日までの期間(0-42.4積立型終身共済ご契約のしおり・約款P131~132)
表③の率: (男性)0.832927、(女性)0.807478